

第27回台北国際ブックフェア 出品

「沖縄県産本30冊」書誌情報

【沖縄戦】

No.1 『沖縄戦記 鉄の暴風』沖縄タイムス社（沖縄タイムス社）

【歴史】

No.2 『島津氏の琉球侵略ーもうひとつの慶長の役』上原兼善（榕樹書林）

No.3 『アジアの海の古琉球ー東アジア・朝鮮・中国』内田晶子 他（榕樹書林）

No.4 『博物学と書物の東アジアー薩摩・琉球と海域交流』高津孝（榕樹書林）

No.5 『琉球王国海上交渉史研究』松浦章（榕樹書林）

No.6 『教養講座 琉球・沖縄史』新城俊昭（東洋企画）

【文化】

No.7 『世界の中の沖縄文化』渡邊 欣雄（沖縄タイムス社）

No.8 『沖縄不真面目文化論』ひーぷー, こきざみインディアン, リップサービス（沖縄時事出版）

No.9 『はじめての象棋（チュンジー）ーわかりやすい「象棋」の入門書・解説書』仲村顕（東洋企画）

【美術・工芸】

No.10 『芭蕉布物語』柳宗悦（榕樹書林）

No.11 『島の手仕事ー八重山染織紀行ー』安本千夏（南山舎）

【民俗】

No.12 『おきなわの一年』ボーダーインク編集部（ボーダーインク）

【自然・食】

No.13 『海を歩けば』小菅丈治（沖縄タイムス社）

No.14 『サンゴしょうのおとぎ話ーなかよし家族の観察ノート』土屋 誠（東洋企画）

No.15 『沖縄八重山発 南の島のハーブ』嵩西洋子（南山舎）

【料理】

No.16 『おうちでうちなーごはん』はやかわゆきこ（ボーダーインク）

No.17 『琉球菓子』安次富順子（沖縄タイムス社）

【地域】

- No.18 『与那国島誌 ―東アジアの南向き玄関口―』 宮良作・宮良純一郎著・宮良瑛子挿絵（南山舎）
- No.19 『親子で学べる 那覇まち物語』 なはナビ友の会（沖縄時事出版）
- No.20 『八重山を学ぶ ―八重山の自然・歴史・文化―』 「八重山を学ぶ」刊行委員会（沖縄時事出版）
- No.21 『台湾疎開「琉球難民」の1年1か月』 松田良孝（南山舎）

【文学・エッセイ】

- No.22 タイムス文芸叢書『バッドデイ』 黒ひょう、『インターフォン』 松田良孝、『Summer Vacation』 儀保佑輔（沖縄タイムス社）
- No.23 『本日の栄町市場と、旅する古書店』 宮里綾羽（ボーダーインク）
- No.24 『帰る家もなく』 与那原恵（ボーダーインク）
- No.25 『増補改訂 ぼくの沖縄〈復帰後〉史プラス』 新城和博（ボーダーインク）

【経済】

- No.26 『沖縄を取り巻く経済状況―沖縄に流れている俗説は果たして正しいのか』 沖縄国際大学公開講座委員会（東洋企画）

【絵本】

- No.27 『82才の中学生 はっちゃん』 沖縄時事出版

【写真集】

- No.28 『写真記録 沖縄戦後史 1945―1998』 沖縄タイムス社（沖縄タイムス社）
- No.29 『来夏世』 大森一也（南山舎）

【雑誌】

- No.30 『雑誌モモト Vol. 17―懐かしくて新しい 台湾×琉球』 東洋企画モモト編集部（東洋企画）

.....

【沖縄戦】

No. 1 『沖縄戦記 鉄の暴風』 沖縄タイムス社（沖縄タイムス社）

『鉄の暴風』 内容）

「戦争の醜さの極致」だと言われた沖縄戦。その沖縄戦の実相を記録した、沖縄戦記の原点といわれる書。軍の作戦上の動きではなく、住民の動きと被害に焦点を当て、住民の視点から執筆されたことは当時としては画期的なこととされた。初版は1950年、沖縄県産本最大のロングセラーとして今なお読み継がれ、「鉄の暴風」という言葉は沖縄戦を語る際の枕詞にもなっており、戦後沖縄人の意識構造にも大きな影響を与えた。20年・30年・50年後の「あとがき」も収録。

『沖縄戦記 鉄の暴風』 目次）

嵐の前夜
悲劇の離島
中・南部戦線
姫百合之塔
死の彷徨
北山の悲風
住民の手記
戦闘経過概要
沖縄戦日誌
沖縄戦線要図 ほか



『鉄の暴風』 書誌情報）

編 著：沖縄タイムス社
発 行：沖縄タイムス社
発行日：1950年8月15日初版発行
定 価：1,458円＋税
頁 数：459頁
装 丁：上製本
ISBN4-87127-001-7

【歴 史】

No. 2 『島津氏の琉球侵略—もうひとつの慶長の役』(榕樹書林)

『島津氏の琉球侵略』内容)

琉球王国が独立国家という位置を失うこととなった 1609 年の薩摩による琉球侵略という歴史的な転換点を東アジア全域の政治的変動・再編をふまえた視点から、残された古文書をもとにその要因を探り、過程を明らかにし、その結果もたらされたものが何であったのかを分析し、琉球王国の国家像を探る。

『島津氏の琉球侵略』目次)

はじめに

第一章 豊臣の「平和」と島津氏・尚氏

第二章 徳川「武威」外交と琉球

第三章 島津軍の南島における軍事的展開

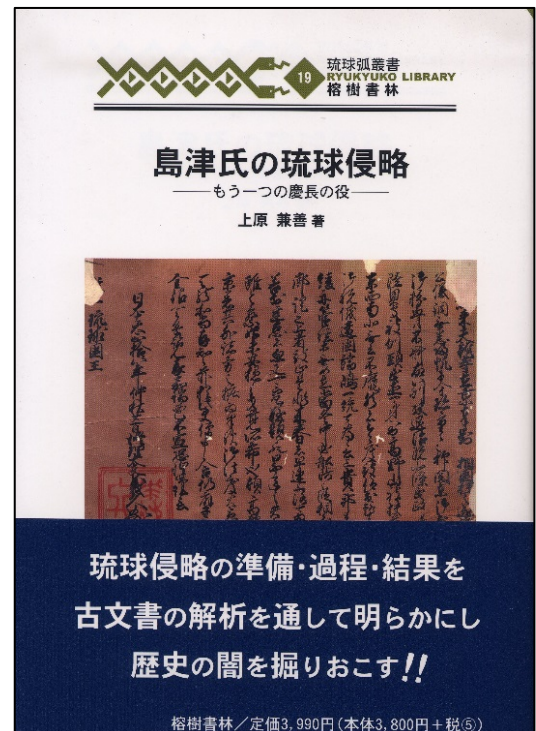
第四章 異国の王の聘問

第五章 境界の領域として

おわりに

あとがき

索引



『島津氏の琉球侵略』書誌情報)

著 者：上原兼善

発 行：榕樹書林

発行日：2009 年 4 月 20 日

定 価：本体 3,800 円＋税

頁 数：274 頁

装 丁：A 5 判 上製本

ISBN978-4-89805-132-0

.....

No.3 『アジアの海の古琉球 東南アジア・中国・朝鮮』 内田晶子・高瀬恭子・池谷望子（榕樹書林）

『アジアの海の古琉球 東南アジア・中国・朝鮮』 内容）

和田久徳門下の三女史が『琉球歴代宝案』『明実録』『朝鮮王朝実録』の中から琉球史料を抽出し、これらを通して、古琉球＝大航海時代の琉球王国と東南アジア・朝鮮・中国との交易の実相を探る。

一般の人にとっては、なかなかとつきにくい漢文史料を易しく読み解いて、アジアの海を駆け巡った古琉球の時代を再現する本書は、歴史を自らの魂の拠り所とする者にとっては大きな快楽となろう。2009 年度沖縄タイムス出版文化賞受賞。

『アジアの海の古琉球 東南アジア・中国・朝鮮』 目次）

第一部 琉球と東南アジア・・・内田 晶子

- 一、『歴代宝案』にみられる琉球船の渡航先
- 二、琉球船が東南アジアへ出た理由を考える
- 三、明の「開洋」の謎

第二部 琉球と朝鮮

- 一、朝鮮への琉球国王使
- 二、捏造された「久辺国」
- 三、「志魯・布里の乱」とは
- 四、首里城は炎上したか
- 五、第一尚氏最後の王「中和」
- 六、漂流民万年と丁録
- 七、十五世紀の先島
- 八、蔡璟という男

第三部 琉球と明

- 一、大琉球と小琉球
- 二、南京・北京と行在－明初の貢使はどこへ入朝したか
- 三、明初、琉球はどこから入貢したか－進貢船は寧波・瑞安・福建へ来航
- 四、琉球へ来航する明の密貿易船－黄蕭養の乱と明の海防対策
- 五、福建市船司－設置から廃止まで
- 六、貢使たちの明での日々－朝貢の手続きと儀礼の実際
- 七、誰も知らない会同館の歴史
- 八、琉球の勘合 明・日本の勘合
- 九、三十六姓賜与と給引通商の請願－琉球、日明通商復活交渉を仲介する
- 十、殺された使臣と救われた使臣－朝鮮へ漂流した二隻の進貢船

十一、崇禎の王銀詐取事件と白糸貿易禁止令

文献解題・・・池谷 望子・内田 晶子

あとがき・・・高瀬 恭子

索引

『アジアの海の古琉球 東南アジア・中国・朝鮮』書誌情報)

著 者：内田晶子・高瀬恭子・池谷望子

発 行：榕樹書林

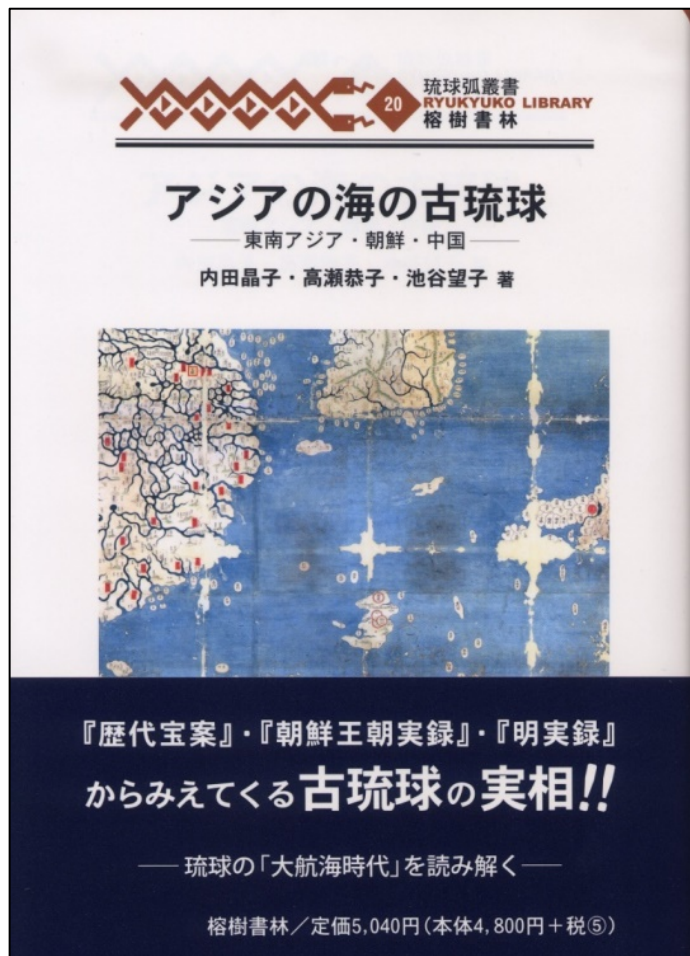
発行日：2009 年 7 月 30 日

定 価：4,800 円＋税

頁 数：310 頁

装 丁：A 5 判 上製本

ISBN978-4-89805-133-7



.....

No. 4 『博物学と書物の東アジア—薩摩・琉球と海域交流』 高津孝（榕樹書林）

『博物学と書物の東アジア—薩摩・琉球と海域交流』 内容）

東アジア海域という広がりの中での『質問本草』や『薩摩禽譜図巻』あるいは『成形図説』、更には『論語集註』等の琉球板本に至るまで薩摩・琉球の本草学・博物学と出版文化を論じ、中国・琉球・薩摩の関係性を文化という側面から明らかにし、新しい歴史像を提起する。

『博物学と書物の東アジア—薩摩・琉球と海域交流』 目次）

第一部 博物学の海域交流—医学、薬学、生物学

- 一 『琉球産物志』から『質問本草』へ
- 二 中国伝統医学と琉球—『琉球百問』と渡嘉敷通寛
- 三 近世琉球の医学文献—久米島文書に基づく
- 四 薩摩の鳥学—大名趣味と珍鳥の流通
- 五 薩摩の鳥学・統一博物学ネットワーク
- 六 島津禽譜

第二部 書物と文化の海域交流

- 一 琉球の出版文化—海を越えた出版文化圏
- 二 近世琉球の書物文化—八重山博物館所蔵漢籍
- 三 琉球板『論語集註』
- 四 薩摩石摺考
- 五 海を渡る贋作たち—琉球ルートを伝わったもの
- 六 琉球、薩摩の書道交流
- 七 琉球と茶の湯

第三部 東アジア文化圏と薩摩

- 一 薩摩の漢学
- 二 長崎の清人と薩摩の漢詩集
- 三 瀟湘八景から鹿児島八景まで
- 四 地誌の学と名所図会—薩摩の名所図会

初出一覧／あとがき／索引

『博物学と書物の東アジア—薩摩・琉球と海域交流』 書誌情報）

著 者：高津 孝

発 行：榕樹書林

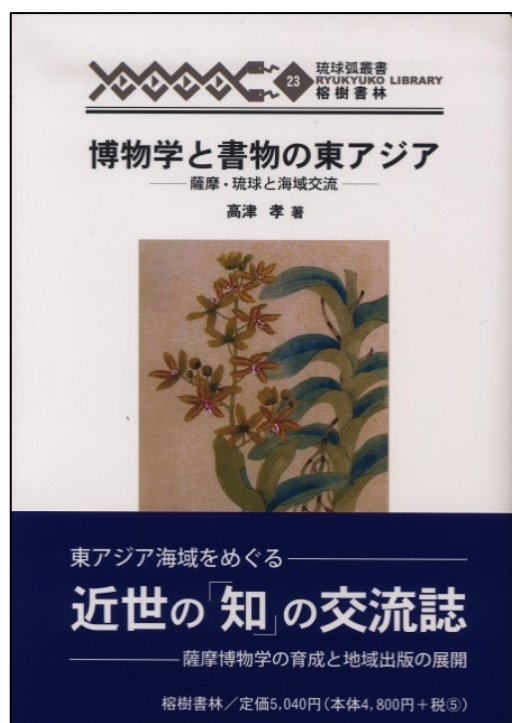
発行日：2010年8月10日

定 価：4,800円＋税

頁 数：296頁

装 丁：A5判 上製本

ISBN978-4-89805-147-4



.....

No. 5 『琉球王国海上交渉史研究』 岡本弘道（榕樹書林）

『琉球王国海上交渉史研究』 内容）

古琉球期の琉球が明との交易や交流を通して海上交易拠点国家として形成されていく上で、明の対外政策、勘合貿易、琉球官生の実態等から、それらがどの様に影響しあっていたのかを綿密に分析し、琉球史研究の新しい時代を開いた基本図書。

本書では明代初期における琉球の位置と交流の実像、官生のあり方、勘合貿易について、あるいは海船の諸相、マラッカ王国との比較等を通して琉球王国の国家形成の実像を探ろうとするものである。2010年度伊波普猷賞受賞。

『琉球王国海上交渉史研究』 目次）

まえがき

第一章 明朝における朝貢国琉球の位置づけとその変化

第二章 明代初期における琉球の官生派遣について

第三章 琉球王国の半印勘合と明朝の朝貢勘合との関係について

第四章 古琉球期の琉球王国における「海船」をめぐる諸相

第五章 「新興通商拠点国家」琉球の形成と展開について

第六章 明朝朝貢体制から見た琉球の対明朝貢の実態

第七章 古琉球期における琉球王国の交易品

むすびにかえて

引用文献目録

索引

『琉球王国海上交渉史研究』 書誌情報）

著 者：岡本弘道

発 行：榕樹書林

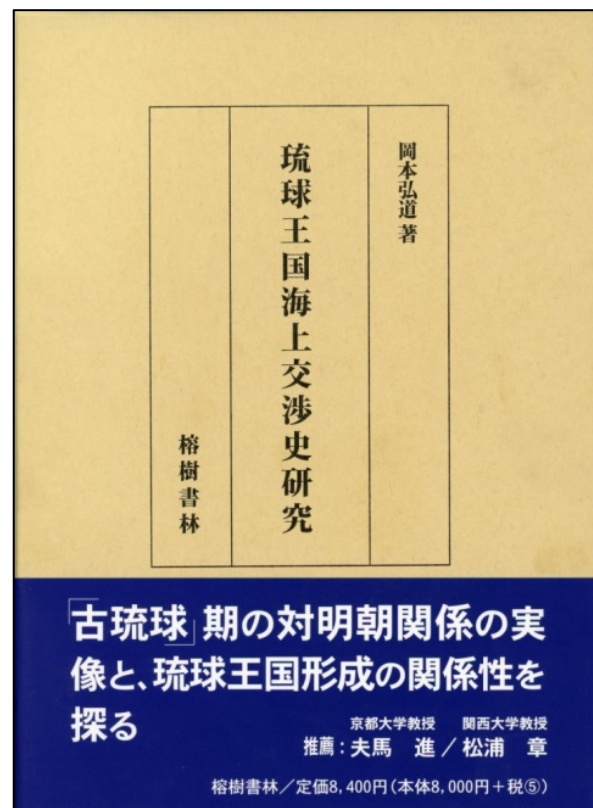
発行日：2010年11月19日（第二刷）

定 価：8,000円＋税

頁 数：264頁

装 丁：A5判 上製本 函入

ISBN978-4-89805-142-9



.....

No. 6 『教養講座 琉球・沖縄史』 新城俊昭（東洋企画）

『教養講座 琉球・沖縄史』 内容）

日本史の教科書では学ぶことのできなかった地域の歴史を具体的に掘り下げられた琉球・沖縄の事象を照らし合わせることによって、過去の歴史に正しい評価をくだす歴史観が培われていくとともに、「琉球史は日本史にとって外国史の研究である」といわれるように、日本、アジア、そして世界の歴史をみる目を養う手助けをする一冊です。

『教養講座 琉球・沖縄史』 目次）

第1部	先史時代
	第1章 琉球・沖縄史のあけぼの
第2部	古琉球
	第2章 琉球王国の成立
	第3章 大交易時代の琉球
第3部	近世琉球
	第4章 薩摩島津氏の琉球侵略
	第5章 廃琉置県（琉球併合）
第4部	近代沖縄
	第6章 沖縄県政のはじめ
	第7章 十五年戦争と沖縄
第5部	戦後沖縄
	第8章 米軍占領と「祖国復帰運動」
	第9章 日本復帰後の沖縄
	年表
	索引



『教養講座 琉球・沖縄史』 書誌情報）

著 者：新城俊昭
発 行：編集工房 東洋企画
発行日：2014年6月23日
定 価：2,000円＋税
頁 数：438頁
装 丁：並製本
ISBN978-4-905412-29-8

.....

【文 化】

No. 7 『世界の中の沖縄文化』 渡邊 欣雄（沖縄タイムス社）

『世界の中の沖縄文化』 内容）

「世界から見える沖縄・沖縄から見える世界」をテーマに、門中、位牌、洗骨、風水、祭り、綱引き、獅子舞、命名などの題材を取り上げ（全 40 回）、沖縄独特と思われるそれらが世界（主に東アジア）とどのような類似点、相違点があるかを平易な文章で解説している。写真を多く配した沖縄民俗入門書の趣きながら、沖縄研究の蓄積をふんだんに詰め込んでいるので、その内容は深い。刊行は 1993 年ながら内容は古びず、今も増刷を続けている。

『世界の中の沖縄文化』 目次）

外に開かれた沖縄文化
オナリ神 姉妹の霊威
モーアシビとニービチ 結婚とは何か
ハヅキ 多義的記号としての入墨
アカマタ・パーントゥ・アンガマ 異相の来訪者
老人の文化 沖縄の長寿の秘訣
沖縄文化の世界性 ほか

『世界の中の沖縄文化』 書誌情報）

著 者：渡邊欣雄
発 行：沖縄タイムス社
発行日：1993 年 5 月 31 日初版発行
定 価：2,340 円+税
頁 数：142 頁
装 丁：並製本
ISBN978-4-87127-009-0



.....

No. 8 『沖縄不真面目文化論』

ひーぷー・こきざみインディアン・リップサービス（沖縄時事出版）

『沖縄不真面目文化論』内容）

「ここが変だよ沖縄」や「沖縄のおもしろ方言」，「沖縄のちょっと変わった結婚式」などなど，テレビやラジオでおなじみのお笑いタレントが沖縄の文化や習慣を面白おかしく，ときには真面目に討論する一冊。

『沖縄不真面目文化論』著者プロフィール）

◆ひーぷー（真栄平仁 Hitoshi Maehira 1969 年生まれ）

テレビやラジオ出演，イベント司会などマルチに活動中。沖縄では知らない人はいないお笑いタレント。劇団の代表として脚本や演出，舞台美術なども手がける。

◆こきざみインディアン（儀間真幸 Sanetomo Gima 1982 年生まれ／城間盛次 Moritsugu Shiroma 1982 年生まれ）

幼少期からの幼馴染で結成されたお笑いコンビ。若者の兄貴分的な存在として人気を博す。

◆リップサービス（金城晋也 Shinya Kinjo 1986 年生まれ／榎森耕助 Kosuke Emori 1987 年生まれ）

沖縄県石垣島生まれの晋也と奈良県で生まれ育った榎森で結成されたお笑いコンビ。沖縄で毎年開催される「お笑いバイアスロン」では 5 連覇を成し遂げ，人気絶頂中。

『沖縄不真面目文化論』目次）

- 第 1 章 こだわる?! こだわらない?!
第 2 章 こきざみインディアンの過激体験
第 3 章 リップサービスの深慮遠謀
第 4 章 こきざみインディアン VS リップサービス
「何でも聞きます！ 話します！」

『沖縄不真面目文化論』書誌情報）

著 者：ひーぷー，こきざみインディアン，
リップサービス

発 行：合資会社 沖縄時事出版

発行日：2018 年 7 月 31 日

定 価：本体 1500 円＋税

頁 数：178 頁

装 丁：並製本

ISBN978-4-903042-31-2



.....

No.9 『はじめての象棋（チュンジー）—わかりやすい「象棋」の入門書・解説書』仲村顕（東洋企画）

『はじめての象棋（チュンジー）—わかりやすい「象棋」の入門書・解説書』内容）

その昔、沖縄が琉球と呼ばれた頃、盤上に打つものといえば囲碁か象棋（チュンジー）のどちらかでした。もともとは日本将棋もチュンジーをルーツに持つと言われています。今ではそんなチュンジーの存在を知る人も少なくなり、消えかけそうな沖縄の文化の一つを、次の世代に引き継ぐべく調査を進め、特に小中学生にも親しんでもらうことを目標に、可能な限り簡単な文章で表現することや漢字にはルビをふるなどの工夫を凝らしました。巻末の資料編、年表については今後の調査研究へ繋げることを意識した構成にし、老若男女問わず一人でも多くの人に楽しんでもらい、広く普及することを目的に作られた入門書・解説書です。

『はじめての象棋（チュンジー）—わかりやすい「象棋」の入門書・解説書』目次）

はしがき

- 1 象棋<チュンジー>とは
- 2 駒<タマ>の動き方
- 3 そのほかの決まり
- 4 勝つためのヒント
- 5 象棋<チュンジー>こぼれ話し
- 6 資料編—琉球の盤上遊戯—

執筆者紹介

あとがき

『はじめての象棋（チュンジー）—わかりやすい「象棋」の入門書・解説書』書誌情報）

編著者：仲村顕

発 行：編集工房 東洋企画

発行日：2011 年 8 月

定 価：1,500 円＋税

頁 数：96 頁

装 丁：並製本

付 録：紙製の象棋盤と駒

ISBN978-4-938984-92-2



.....

【美術・工芸】

No.10 『芭蕉布物語』 柳宗悦（榕樹書林）

『芭蕉布物語』 内容）

昭和 17 年に私家版限定本として刊行された名著に、詳細な解説を附した待望の新版。「今どきこんな美しい布はめったにないのです。」に始まる柳宗悦の芭蕉布讃歌は、戦後の芭蕉布復興のバイブルとなり、人間国宝・平良敏子さんを生み出し、琉球織物の最高の美として広く世に知らしめる元典となった。

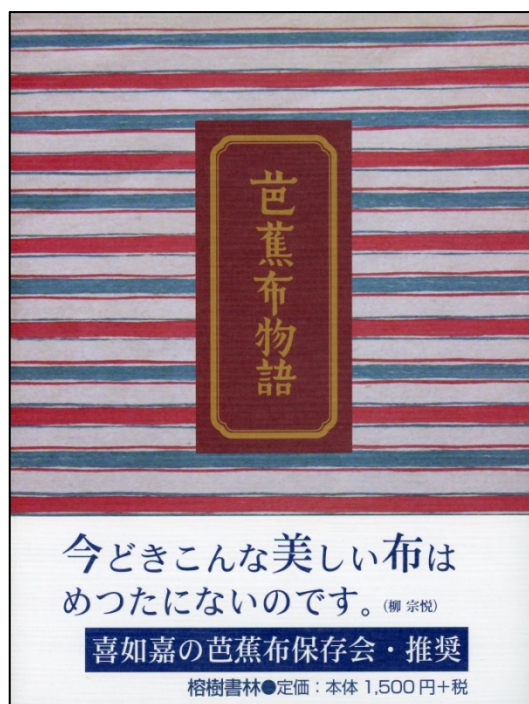
解題は、民藝運動の美意識を高く評価しつつ、その内部に分け入り、その美の本質は何なのかを鋭く追求している。（松井健氏は東京大学東洋文化研究所人類学専攻、現在は名誉教授。）

『芭蕉布物語』 目次）

前書（まえがき） / 芭蕉布（ばしょうふ） /
芭蕉糸（ばしょういと） / 糸績（いとうみ） /
糸括（いとくくり） / 糸染（いとぞめ） /
梓巻（かせまき） / 緋柄（かすりがら） /
機織（はたおり） / 緋味（かすりあじ） /
芭蕉着（ばしょうぎ） / 夏衣（なつぎぬ） /
織手（おりて） / 後書（あとがき）

『芭蕉布物語』 解題目次）

- 一、『芭蕉布物語』の位置
- 二、『芭蕉布物語』が語ること
- 三、近代批判としての『芭蕉布物語』
- 四、『芭蕉布物語』爾後



『芭蕉布物語』 書誌情報）

著 者：柳 宗悦 解題：松井 健
発 行：榕樹書林
発行日：2016 年 9 月 20 日
定 価：1,500 円 + 税
頁 数：128 頁
装 丁：B 5 変判 並製本
ISBN978-4-89805-189-4

.....

No.11 『島の手仕事 ー八重山染織紀行ー』 安本千夏（南山舎）

『島の手仕事 ー八重山染織紀行ー』 内容）

八重山諸島には、今も島々に生活に根付いた豊かな染織文化が残っている。古来より、島人は苧麻や芭蕉から糸をとり、島の草木で染色し、家族のために着物をつくってきた。島の手仕事には、手技を伝えてきた祖先への畏敬の想い、八重山の自然に対する深い感謝の気持ちがこめられている。資料編に八重山の糸素材、染料植物、織物用具、八重山の主な織物がカラー写真で紹介されている。第3回南山舎やいま文化大賞、第36回沖縄タイムス出版文化賞受賞。

『島の手仕事 ー八重山染織紀行ー』 目次）

福寿をはぐくむ島の暮らし（大谷キヨ）／島の色「藍」に魅せられ（大瀨 豪）
母、貞子を偲ぶ手技に生きて（仲盛トミ・花城キミ）／八重山からインドへ、海を渡る（森 伸子）／
民芸の島、竹富を愛す（内盛スミ）／西表から次代を視つめる（石垣昭子）／
石垣島に機音を（新 絹枝）／小浜の宝、シマアイと共に（慶田盛英子）／
与那国で手仕事を授かる（角田麗子）／竹富の血を受け継いで（島仲由美子・吉澤やよい）／
南嶋の石垣に古布を残す（崎原 毅）／しなやかな「結い」と与那国織（請花祐子）／
鳩間の教えに寄る人びと（寄合 富）／開拓の地、大富を想う（桃原 民）／
よみがえりの布・八重山上布（石垣市織物事業協同組合）／
ヤマシャから大工まで（戸眞伊 擴）
〔資料編〕糸素材／八重山の主な染料植物／織物用具／八重山の主な織物／織物のできるまで
私の島暮らし（あとがきにかえて）

『島の手仕事 ー八重山染織紀行ー』 書誌情報）

著 者：安本千夏

発 行：南山舎

発行日：2015年9月30日

定 価：2,800円＋税

頁 数：384頁

装 丁：上製本

ISBN978-4-901427-37-1



.....

【民 俗】

No.12 『おきなわの一年』 ボーダーインク編集部他（ボーダーインク）

『おきなわの一年』 内容）

亜熱帯気候の沖縄の春夏秋冬、中国や日本からの影響を受けた伝統的年中行事や現在開催されている各種イベントなどをかわいいイラストとコンパクトな説明で紹介。沖縄の暮らしの中で垣間見える自然・文化・歴史をお子さんから大人まで見て読んで楽しめる一冊です。

『おきなわの一年』 目次）

おきなわはこんなに広い

おきなわは独特の歴史と文化を持っている

おきなわの季節のうつりかわり

おきなわは亜熱帯海洋性気候

おきなわの暦／旧暦は月の満ち欠けをもとに



『おきなわの一年』 書誌情報）

著 者：ボーダーインク編集部他

発 行：ボーダーインク

発行日：2018 年 6 月 14 日発行

定 価：1,400 円＋税

頁 数：28 頁

装 丁：並製本

ISBN978-4-89982-350-6

.....

【自 然（食）】

No.13 『海を歩けば—アジアの生物多様性に魅せられて』小菅丈治（沖縄タイムス社）

『海を歩けば—アジアの生物多様性に魅せられて』内容）

ベトナム、オーストラリア、中国、そして八重山。熱帯アジア各地で海洋生物の調査・研究を続けてきた著者が、その知見を生かしながら八重山の自然の豊かさを詩情豊かに描いた14編のエッセー。巻末に「生物名索引」つき。タイトルは漁をすることを意味するウチナーグチ「ウミアッチュン（海を歩く）」から。

『海を歩けば—アジアの生物多様性に魅せられて』目次）

浜辺のバザール—「あまん」の宿命

ヤドカリ的生活

ホシムシが支える村の経済—ベトナム北部・ドンズイ村

魚の目を持つ男—フィリピン中部・ドンズイ村

瓦家の住人—干潟の共生生物

マドガイに朝の光射す—貝殻が語る古環境

黄海の雪とスナヒトデ

チゴガニの「元祖」を求めて—中国広州探訪

繁殖期の起源—亜熱帯にすむカニの季節感

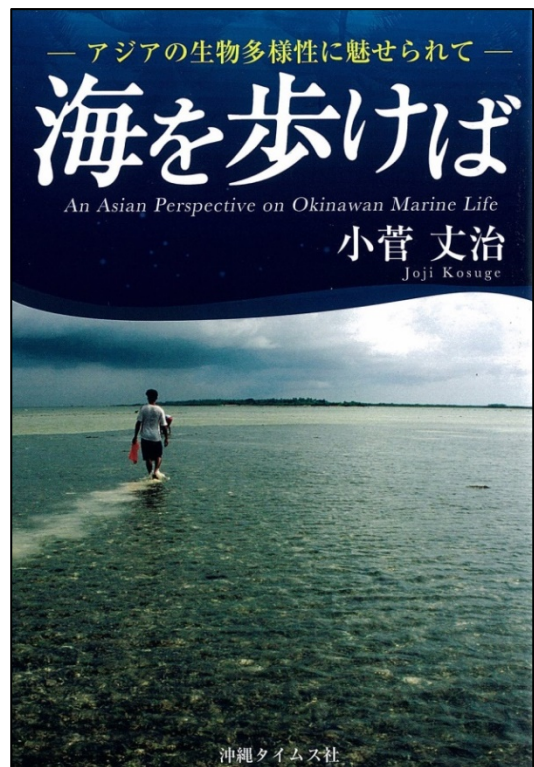
木曜島と沖縄

ここに幸あり—フィリピン・珍しい貝を獲る漁業

海と島の間に—海から来て川にすむアマオブネ類の生態

カニの歌に先人の自然観を読む

安南の記憶—海を越えたつながり



『海を歩けば—アジアの生物多様性に魅せられて』書誌情報）

編 著：小菅丈治

発 行：沖縄タイムス社

発行日：2015年7月20日初版発行

定 価：1,800円+税

頁 数：214頁

装 丁：並製本

ISBN978-4-87127-222-3

.....

No.14 『サンゴしょうのおとぎ話—なかよし家族の観察ノート』 編集工房東洋企画（東洋企画）

『サンゴしょうのおとぎ話—なかよし家族の観察ノート』 内容)

サンゴ礁とそこに棲む生き物を家族の会話形式で解説し、専門書ではなく子どもにもわかりやすく書かれていて、実際に海へ持って行き生物や植物を観察する際の手引きとしても活用できます。著者の経験からあえて簡単に見つけられそうな生き物を多く紹介し、沖縄の豊かな自然の楽しさ面白さ大切さを子ども達に伝えていけるような内容になっています。

『サンゴしょうのおとぎ話—なかよし家族の観察ノート』 目次)

1. サンゴしょうってなあに？
2. 海面は動く：潮の満ち引き
3. 桃から生まれた桃太郎
4. 動かない動物
5. 一寸法師の鬼退治
6. サンゴにこぶがある
7. 暑い夏には打ち水
8. 磯の生き物は水が嫌い？
9. サンゴしょうをこわす生き物がいる？
10. イモガイの食事と穴の使い道
11. 魚の畑仕事
12. ゴカイの恩返し
13. 美しいサンゴしょうの水の秘密
14. とともに白髪が生えるまで
15. 大事件発生
16. おどり明かそう
17. ウデフリクモヒトデのアドバイス
18. 天然記念物のオカヤドカリ
19. 浦島太郎が助けたカメ
20. 海辺に流れ着くもの



『サンゴしょうのおとぎ話—なかよし家族の観察ノート』 書誌情報)

著 者：土屋 誠

発売元：編集工房 東洋企画

発行日：2016 年 8 月 15 日

定 価：1,000 円＋税

頁 数：106 頁

装 丁：並製本

ISBN978-4-905412-58-8

.....

No.15 『沖縄八重山発 南の島のハーブ』 嵩西洋子（南山舎）

『沖縄八重山発 南の島のハーブ』内容）

日本の最西端の島で生まれ、薬草や漢方薬を当たり前のように使いこなしていた祖母の影響を受けて育った著者。本書では沖縄のハーブ 337 種類を植物画と写真を交えて紹介。伝統的な活用法、常識にとらわれない現代風料理レシピ、コラムなどが満載の一冊です！

第 39 回沖縄タイムス出版文化賞受賞！

『沖縄八重山発 南の島のハーブ』目次）

この本の見方／八重山諸島はどのあたり？／ハーブが息づく与那国島／
石垣島から伝える八重山のハーブ／ピパーチ（ヒハツモドキ）の魅力と復活・普及活動／
八重山の気候とハーブの特徴／八重山のハーブ栽培カレンダー／八重山で見られる主なハーブ／
ハーブ、野菜、スパイス、薬用植物（薬草）の違い／有毒植物について／あとがきにかえて／
本文に出てくる植物用語／参考文献／索引

『沖縄八重山発 南の島のハーブ』書誌情報）

著 者：嵩西洋子

発 行：南山舎

発行日：2018 年 2 月 14 日初版第一刷発行

2018 年 4 月 18 日第二刷発行

定 価：2,300 円＋税

頁 数：308 頁

装 丁：並製本

ISBN978-4-901427-43-2

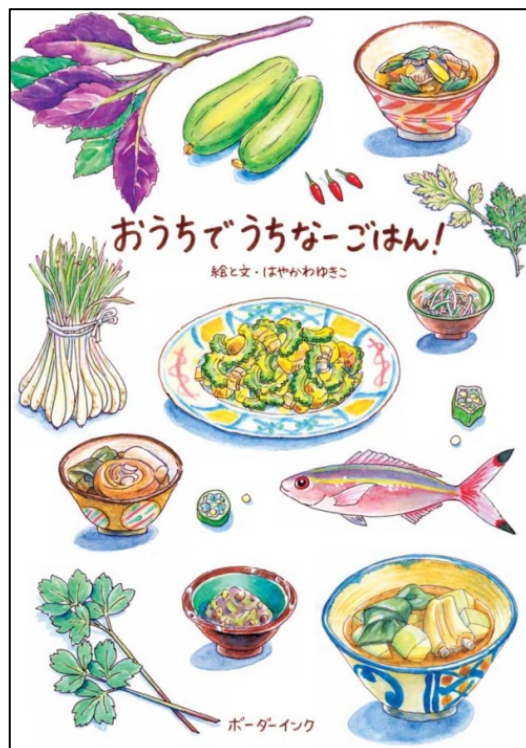


No.16 『おうちでうちなーごはん』 はやかわゆきこ (ボーダーインク)

太陽をいっぱいにあびて育った島野菜や海の幸をふんだんに使い、自然の恵みに感謝してつくられてきた毎日のごはん。長寿で知られるウチナーンチュ（沖縄の人々）を支えてきたのは沖縄の家庭料理でした。夏・秋・冬・春、季節ごとの食材とレシピを、オールカラーのイラストで紹介します。

ウリ類の季節／三つの「見る」／それぞれの一品／
 ベランダのアタイグワ／元気になあれ／
 朝ジューシーのススメ／食べ物を運ぶ時に…“サン”／
 イリチー七変化／うちなーごはんで行こう！

ISBN978-4-89982-305-6



.....

No.17 『琉球菓子』安次富順子（沖縄タイムス社）

『琉球菓子』内容）

琉球料理の本はあまたあるが、菓子、特に王朝菓子に特化した唯一の書である。文献に名や材料はあるが作り方は記されておらず、現在に伝わっていない菓子について、古老からの聞き取りと日本・中国・南蛮の類似の菓子の研究から再現し、そのレシピと由来などを解説したオールカラー版。単なる紹介にとどまらず、“もてなし”の文化や心まで伝わる内容になっている。

『琉球菓子』目次）

王朝菓子（けさちいな

水山吹

花ぼうる

松風

闘鶏餃

汀砂あん

光餅

チンスコウ

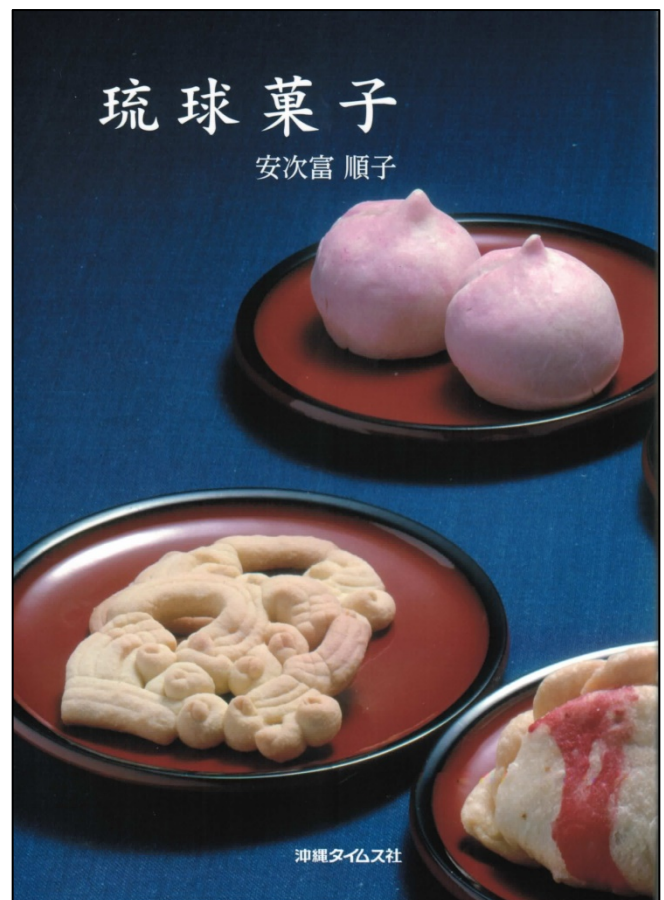
ムーチャー

昔の盛り菓子 現在の盛り菓子

冊封使饗応料理と琉球菓子）

庶民のお菓子（サーターアンダーギー／ポーポー／ふちゃぎ）

王朝菓子論文2編 ほか



『琉球菓子』書誌情報）

著 者：安次富順子

発 行：沖縄タイムス社

発行日：2017年7月28日初版発行

定 価：2,200＋税

頁 数；102頁

装 丁：上製本

ISBN978-4-87127-243-8

.....

【地 域】

No.18 『与那国島誌 ー東アジアの南向き玄関口ー』宮良作・宮良純一郎 著／宮良瑛子 挿絵（南山舎）

『ー東アジアの南向き玄関口ー 与那国島誌』内容）

につぼんの西の端に「東アジアの南向き玄関口」として開いている小さな「国」がある。につぼんに一括りしたことを申し訳なく思わせる位置の島、与那国。台湾までは110km。空気の澄んだ日には台湾の山並が彼方に見える。その島の特徴と独自性を、地勢、自然、歴史、暮らしにわたり、島に生まれ、島を愛する著者二人が語り尽くす。

『与那国島誌 ー東アジアの南向き玄関口ー』目次）

- 第1章 与那国島の地勢と自然、そのいくつか
- 第2章 庶民はいかにして数を生み出したか
- 第3章 集落の変遷と社会の様相
- 第4章 「戦争こそこの世の地獄」大舛家の鎮魂・平和の墓標
- 第5章 日本国憲法をチマムヌイ（与那国島語）で
- 第6章 特別寄稿「自衛隊基地」問題

『与那国島誌 ー東アジアの南向き玄関口ー』書誌情報）

著 者：宮良作・宮良純一郎 著／宮良瑛子 挿絵

発 行：南山舎

発行日：2017年6月27日

定 価：2,000円＋税

頁 数：216頁

装 丁：上製本

ISBN 978-4-901427-42-5



.....

No.19 『親子で学べる 那覇まち物語 ー那覇のむかしと今が地図・イラスト・写真でわかる物語ー』
那覇ナビの会（沖縄時事出版）

『親子で学べる 那覇まち物語』内容）

「親子で学べる」をキーワードに那覇のむかしと今を紹介した一冊。

旧石器時代から現代までの那覇にある遺跡、文化財、伝統工芸品、合併してできた現在の那覇市、国際通りや新都心地区の発展などなど、写真や図を使い分かりやすくまとめました。

地図ものせてあるので、フィールドワーク用にも使えます。

『親子で学べる 那覇まち物語』目次）

はじめに

- 1 日本最古の人骨を那覇市山下町で発見／ 2 昔、那覇に海中道路があった
- 3 琉球王国の国際貿易港ー那覇港(なはとまり)／4 首里王府をささえた中国からやってきた人々とその子孫
- 5 那覇のまちは西村、東村、若狭町村、泉崎村の四村ではじまった
- 6 世界にはこれる沖縄の世界文化遺産／7 琉球の国王が住んだ首里城
- 8 国王のぶじをいのった園比屋武御嶽(スヌヒャンウタキ)／9 琉球王家のお墓～玉陵
- 10 琉球王家最大の別荘～識名園／11 伝統的な焼き物のまち～壺屋
- 12 独自の技法を生み出した琉球漆器／13 沖縄の伝統的な染織物～「琉球びんがた」と「首里織」
- 14 世界にはこれる銘酒～琉球泡盛／15 昔、前島の干潟で塩をつくった
- 16 那覇の伝統的な行事～大綱挽・ハーリー・マラソン／17 産業の恩人～儀間真常
- 18 繁多川豆腐がおいしいわけ／19 ペリー艦隊が琉球へやってきた
- 20 軽便鉄道からモノレールへ／21 10・10 空しゅうで那覇は焼け野原に
- 22 那覇市は合ぺいして都市建設をはじめる／23 那覇のメインストリート・国際通りへ
- 24 ガーブ川とそのまわりを改修してできた商店街／25 軍用地から新都心へ
- 26 漫湖のマングローブ林や水鳥を見学しよう

資料のページ(那覇市の合併・人口の変遷・市役所年表)

沖縄および県都・那覇のおもなあゆみ(年表)

さくいん

『親子で学べる 那覇まち物語』書誌情報)

企画編集:なはナビ友の会

発行日:2018年12月20日

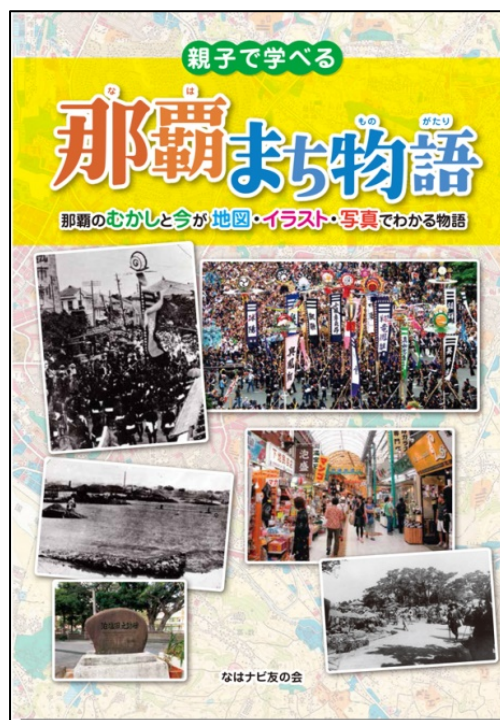
発行:合資会社 沖縄時事出版

定価:1300円

頁数:80頁

装丁:B5判 並製本

ISBN978-4-903042-32-9



.....
No.20 『八重山を学ぶ ー八重山の自然・歴史・文化ー』「八重山を学ぶ」刊行委員会（沖縄時事出版）

『八重山を学ぶ ー八重山の自然・歴史・文化ー』内容）

八重山諸島は日本の一番南にある島々で形成される沖縄県の離島。その中心にある石垣島は、那覇からは 410 km 離れているが、台湾とは約 280 km の近距離に位置する。本書『八重山を学ぶ』は、八重山の自然・歴史・文化の 3 分野を 1 冊にまとめた八重山を知るための入門書でもある。自然分野では各島の独特な景観・地形や生物相・生態系を、豊富な写真やイラストで説明。歴史分野では最新の情報が盛り込まれ、先史時代から現代まで写真や資料を多用しながら、歴史の流れを分かりやすく記述。文化分野は、各島で異なる島言葉（方言）や年中行事、伝統文化、民謡や舞踊などが分かりやすく紹介されている。

『八重山を学ぶ ー八重山の自然・歴史・文化ー』目次）

序）八重山とはどんなところ

第Ⅰ編 八重山の自然

八重山の地形と地質／八重山の生きものたち／八重山の気候の特徴／自然環境と私たち

第Ⅱ編 八重山の歴史

八重山の先史時代／八重山の古代・中世／八重山の近世／八重山の近代／八重山の現代

第Ⅲ編 八重山の生活と文化

島々の生活と文化／年中行事／伝統文化／人の一生

第Ⅳ編 関連資料

人頭税^{にんとうぜい}の仕組み／明和大津波の死亡・行方不明者／八重山・沖縄の年中行事／3 市町村・島々のデータ／八重山の戦争関連遺跡／八重山歴史年表

『八重山を学ぶ ー八重山の自然・歴史・文化ー』書誌情報）

編 著：「八重山を学ぶ」刊行委員会

発 行：合資会社 沖縄時事出版

発行日：2018 年 5 月 15 日 初版発行

2018 年 7 月 25 日 第 2 刷発行

定 価：2000 円＋税

頁 数：231 頁

装 丁：並製本

ISBN978-4-903042-29-9



.....

No.21 『台湾疎開「琉球難民」の1年11ヵ月』松田良孝（南山舎）

『台湾疎開「琉球難民」の1年11ヵ月』内容）

太平洋戦争末期の1944年7月、日本政府は緊急閣議で南西諸島の奄美大島、徳之島、沖縄本島、宮古、石垣の5島の老幼婦女子の台湾疎開を決定した。本書はこのうちの無縁故疎開について、石垣から台湾の中南部に疎開した3人を中心に、出発から疎開先への入居、食事や病気、二次疎開から食糧難にあえぐ様子、敗戦を迎えて台湾人に囲まれた恐怖や助けられた話、そして引き揚げ港の南方澳から島に帰還するまでの足取りを克明に追うことで、台湾疎開の実態を明らかにした初の著作である。敗戦直前には、若い兄妹が食を求めてさまよう姿が胸を打つ。台湾政府はこうした疎開者を「琉球難民」と呼んでいた。離島の戦争を語る貴重な一書である。

『台湾疎開「琉球難民」の1年11ヵ月』目次）

第1部 疎開

序 章

第1章「出発」／第2章 疎開地にて一新営

第3章 茶の里―龍潭／第4章 2次疎開

第5章 終戦／第6章 栄丸事件

第7章 引き揚げ

終 章

第2部 疎開地を訪ねてみる

佳里／新営／南投

南方澳／麻豆／龍潭

第3部 疎開者帰還船の運航と台湾沖縄同郷会連合会



『台湾疎開「琉球難民」の1年11ヵ月』書誌情報）

著 者：松田良孝

発行日：2010年6月1日

発行者：上江洲儀正

発 行：南山舎

定 価：2,300円＋税

ISBN978-4-901427-20-3

.....

【文 学・エッセイ】

No.22 タイムス文芸叢書『インターフォン』『バッドデイ』『Summer Vacation』（沖縄タイムス社）

『インターフォン』『バッドデイ』『Summer Vacation』内容）

「新沖縄文学賞」は、沖縄から本格的な小説の書き手の発掘を目的に 1975 年に創設され、又吉栄喜、目取真俊といった後の芥川賞作家を輩出したことでも知られる、沖縄小説界の登竜門。「タイムス文芸叢書」はその第 40 回を記念して受賞作を単行本化したシリーズ。『インターフォン』（第 40 回受賞作品）は沖縄—石垣—台湾のアイデンティティーの揺らぎを描いた。『バッドデイ』（第 41 回受賞作）は 70 年前の戦争と現在が交差する展開をテンポある文体でつづった傑作。『Summer Vacation』（第 43 回受賞作）はネット社会と現実の人間関係の断絶を描いた。

『インターフォン』『バッドデイ』『Summer Vacation』『バッドデイ』書誌情報）

発 行：沖縄タイムス社

定 価：各 700 円+税

装 丁：並製本

『インターフォン』

著 者：松田良孝

発行日：2015 年 1 月 23 日初版発行

頁 数：123 頁

ISBN978-4-87127-219-3

『バッドデイ』

著 者：黒ひょう

発行日：2016 年 1 月 19 日初版発行

頁 数：121 頁

ISBN978-4-87127-230-8

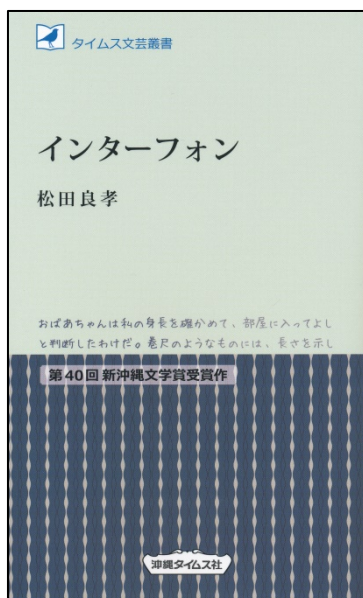
『Summer Vacation』

著 者：儀保佑輔

発行日：2018 年 2 月 7 日初版発行

頁 数：138 頁

ISBN978-4-87127-250-6



.....

No.23 『本日の栄町市場と、旅する古書店』 宮里綾羽（ボーダーインク）

『本日の栄町市場と、旅する古書店』内容）

沖縄那覇市の栄町市場にある小さな本屋さん「宮里小書店」の副店長がつづるカウンター越しのエッセイ。沖縄の市場の魅力的な人々、旅したなかで思い出す本、ゆったりと流れる時と忘れられない光景。思わず笑い出したり、時にじんとわり涙するエッセイ集です。

『本日の栄町市場と、旅する古書店』目次）

はじめに

わたしが栄町市場に座っている意味

本日の栄町市場

アコークローの娘

旅する小書店

あとがきとして



●著者略歴

宮里綾羽 みやざとあやは

1980 年、沖縄県那覇市生まれ。多摩美術大学卒業。2014 年 4 月から宮里小書店の副店長となり、栄町市場に座る。市場でたくましく生きる人たちにもまれながら、日々市場の住人として成長中。ちなみに、宮里小書店の店員は店長と副店長。池澤夏樹公式サイト「Cafe impala」で連載中。

『本日の栄町市場と、旅する古書店』書誌情報）

著 者：宮里綾羽

発 行：ボーダーインク

発行日：2017 年 11 月

定 価：1,600 円＋税

頁 数：224 頁

装 丁：四六判ソフトカバー

ISBN978-4-89982-329-2

.....

No.24 『帰る家もなく』 与那原恵（ボーダーインク）

『帰る家もなく』 内容）

『首里城への坂道』『美麗島まで』のノンフィクション作家が紡ぐエッセイ集

沖縄、台湾、韓国、日本、欧米……旅のなかでよみがえる愛しい人たちの記憶。

ノンフィクション作家として、自分自身のルーツでもある沖縄の近・現代史を描き、また国内外の様々な旅を続けるなかで出会ったひと、歴史、友人たちの思い出と忘れてはいけない歴史の記憶を拾い集めてきた著者が、個人史として、ルポルタージュとして、そしてなにより楽しい旅の日々としてまとめた珠玉のエッセイ集です。

『帰る家もなく』 目次）

第一章 帰る家もなく

第二章 時の散歩道

第三章 旅の向こうに

第四章 家出の自由

初出一覧



●著者プロフィール

与那原恵（よなはら・けい）

ノンフィクション作家。1958年東京都生まれ。

著書に『美麗島まで』『サウス・トゥ・サウス』『わたぶんぶん わたしの「料理沖縄物語」』など。

『首里城への坂道 鎌倉芳太郎と近代沖縄の群像』で第2回河合隼雄学芸賞と第14回石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞を受賞。

『帰る家もなく』 書誌情報）

著 者：与那原恵

発 行：ボーダーインク

発行日：2018年3月30日

定 価：1,800円＋税

頁 数：324頁

装 丁：四六判ソフトカバー

ISBN978-4-89982-340-7

.....

No.25 『増補改訂 ぼくの沖縄〈復帰後〉史プラス』新城和博（ボーダーインク）

『増補改訂 ぼくの沖縄〈復帰後〉史プラス』内容）

思い出はモノクロームで蘇る。過去の事でもあり、現在の事でもある沖縄の〈復帰後〉。1972年の日本復帰から現在までの印象的な出来事を個人の思い出とクロスして描くユニークな沖縄現代史。大好評につき2014年以降の出来事をプラスした待望の増補改訂版。

『増補改訂 ぼくの沖縄〈復帰後〉史プラス』目次）

まえがき

思い出はモノクロームで蘇る

〈一九七〇年代〉 「車は左 人は右」、じゃあ沖縄は？

一九七二年 ドルから円への通貨交換／一九七五年 「ダイナハ」オープン

一九七六年 「海洋博」閉幕／一九七八年 ナナサンマル「7・30」

〈一九八〇年代〉 「ヤマトンチューになりたくて、なりきれない」

一九八一年 具志堅用高、敗れる！／一九八一～八二年 断水326日

一九八三年 七か月のバススト争議／一九八五年 西銘順治「沖縄の心」発言

一九八六年 日の丸・君が代問題／一九八七年 「海邦国体」開催

一九八九年 「慰霊の日」休日廃止問題

〈一九九〇年代〉 「オータ」と「アムロ」の時代

一九九〇年 大田昌秀革新県政誕生／一九九一年 喜納昌吉、紅白出場

一九九二年 「首里城公園」開園／一九九五年 10・21 県民総決起大会

一九九六年 安室奈美恵、大ブレイク／一九九七年 「ミハマ・セブンプレックス」開館

一九九九年 映画「ナビィの恋」大ヒット

〈二〇〇〇年代〉以降 「苦渋の決断」はもういない

二〇〇〇年 「沖縄サミット」開催／二〇〇一年 ドラマ「ちゅらさん」ブーム

二〇〇二年 「美ら海水族館」オープン／二〇〇三年 「ゆいレール」発進

二〇〇四年 沖縄大に米軍ヘリ墜落／二〇〇七年 教科書検定撤回9・29 県民大会

二〇一〇年 興南高校野球部、春夏連覇／二〇一二年 オスプレイ配備

エピローグ

〈復帰後〉四〇年間をふりかえった

付録 四〇年後の那覇の街角から

付録プラス 〈復帰後〉史は続く 二〇一四年～二〇一八年

二〇一四年 オール沖縄の衝撃

二〇一五年 辺野古埋め立て承認取り消し

二〇一六年 沖縄に雪が降る

二〇一七年 インバウンドの増加

二〇一八年 翁長知事死去、安室引退、デニー知事当選

あとがき

●著者プロフィール

新城和博（シンジョウカズヒロ）

1963 年沖縄・那覇市生まれ。城岳小学校、上山中学校、那覇高校をへて、琉球大学法文学部社会学科社会人類学コース卒業。現在ボーダーインクにて編集者として勤務。著書に『うちあたいの日々』『〈太陽雨〉の降る街で』『ンパンパッ！おきなわ白書』『道ゆらり』『うっちん党宣言』『ぼくの〈那覇まち〉放浪記』（ボーダーインク）ほか、共著多数。

『増補改訂 ぼくの沖縄〈復帰後〉史プラス』書誌情報誌)

著 者：新城和博

発 行：ボーダーインク

発行日：2014 年 1 月初版第一刷発行

2018 年 11 月増補改訂版第一刷発行

定 価：1,200 円＋税

頁 数：200 頁

装 丁：新書判

ISBN 978-4-89982-354-4



.....

【経 済】

No.26 『沖縄を取り巻く経済状況—沖縄に流れている俗説は果たして正しいのか』 沖縄国際大学（東洋企画）

『沖縄を取り巻く経済状況—沖縄に流れている俗説は果たして正しいのか』内容）

社会的に関心の高い経済、とりわけ沖縄経済を取り上げ、戦後 70 年を迎えた沖縄の経済状況を多様な切り口から考え、アメリカ世から大和の世へとめまぐるしく移り変わり翻弄された沖縄の世を、経済学的視点から、2014 年度沖縄国際大学が実施した「うまんちゅ定例講座」の講演を基に 10 名の講師陣がまとめた一冊。

『沖縄を取り巻く経済状況—沖縄に流れている俗説は果たして正しいのか』目次）

はしがき

横断的問題解決手法

沖縄経済論

沖縄の雇用労働問題

沖縄経済と観光

沖縄の基地経済～課題と展望～

大学の社会的責任

アブダクションを用いた製品設計のための方法論の検討

地域資産としての沖縄の文化的景観

沖縄における金融状況

沖縄における交通産業の生成と発展

刊行のことば



『沖縄を取り巻く経済状況—沖縄に流れている俗説は果たして正しいのか』書誌情報）

編 集：沖縄国際大学公開講座委員会

発行者：浦本寛史

発行所：沖縄国際大学公開講座委員会

発行日：2015 年 3 月 31 日

定 価：1,500 円＋税

頁 数：336 頁

装 丁：並製本

ISBN97978-4-905412-39-7

.....

【絵 本】

No.27 『82 さいの中学生 はっちゃん』かのうひであき・すずきちかこ（沖縄時事出版）

『82 さいの中学生 はっちゃん』内容）

作者の母親の実体験を基にした「沖縄発、平和を願う絵本」。沖縄戦の影響で中学校に進学することをあきらめた主人公“はっちゃん”が、82 歳にして学ぶ機会を得て学校に通い、義務教育修了の証書を受け取るまでの物語。「学びたい」という想いを持ち続けながら、家族のために頑張る主人公。その姿を明るく親しみやすい絵と主人公の心情によりそう文でえがきます。

沖縄県の調査によると、戦争中と戦後の混乱の時期に義務教育を受けることができなかった人は約 1600 名。県教育庁は、2011 年度から義務教育を終えていない人を対象に、無償で学習の機会を提供しました。この学び舎（教室）は、高齢者に学びの機会と生きがいを与えました。

本書には「学びたいものに対しての学習の機会が広がることを切に願う」という作者の想いが込められています。2018 年沖縄タイムス出版文化賞（児童部門）受賞。

『82 さいの中学生 はっちゃん』あらすじ）

沖縄生まれのはっちゃんは、八人家族、六人兄弟の長女。沖縄戦が始まる前、兄ちゃんは宮崎に疎開し、父ちゃんは防衛隊に入ります。小学校の卒業式の翌日、はっちゃんの一家は、戦火を逃れ、やんばる（沖縄島北部）へ、山にかくれての避難生活。戦後は収容所に入れられ、そこで父ちゃんが亡くなったことを知ります。

はっちゃんは、母ちゃんを助け、幼い弟・妹のために働きました。畑仕事、土木工事、食堂の仕事、なんでもしました。同級生は中学校に行きましたが、はっちゃんに学校へ行く余裕はなく、好きな勉強をあきらめなければなりません。やがて結婚をし、今度は自分の子どものために身を粉にして働きました。

子どもたちが独り立ちし、82 歳になったある日、はっちゃんに学校の案内が届きます。ずっと勉強への想いをもち続けていたはっちゃんは、学校に通うことを決めます。

『82 さいの中学生 はっちゃん』書誌情報）

文：嘉納 英明 絵：鈴木智香子

発 行：合資会社 沖縄時事出版

発行日：2018 年 5 月 31 日 初版発行

定 価：1300 円＋税

頁 数：48 頁

装 丁：上製本

ISBN978-4-903042-30-5



.....

【写真集】

No.28 『写真記録 沖縄戦後史 1945-1998』 沖縄タイムス社（沖縄タイムス社）

『写真記録 沖縄戦後史 1945-1998』内容）

1944年の「10・10空襲」を前史とする沖縄戦、戦後の米軍統治、高まる民衆運動による「祖国復帰」、押し寄せる本土化、見つめ直された沖縄の独自性一。こうした流れを経た沖縄の戦後史を豊富な報道写真によって記録する。1987年に刊行した前書に大幅な改訂を加え、88年以後の動きを増補した。写真の選択にあたっては、生活史的・風俗的なものを重視し、当時の沖縄人の息遣いが伝わるようにしている。歴史理解を深める資料として「戦後史年表 1945-1998」「写真索引」も付した。

『写真記録 沖縄戦後史 1945-1998』書誌情報）

編 著：沖縄タイムス社

発 行：沖縄タイムス社

発行日：1998年9月18日 改訂増補版発行

定 価：4,000円+税

頁 数：303頁

装 丁：並製本

ISBN4-87127-129-3



.....

No.29 『来夏世 - 祈りの島々 八重山ー』 大森一也（南山舎）

『来夏世 - 祈りの島々 八重山ー』 内容）

21世紀の今も敬虔な祈りと命の輝きに満ちた八重山の島々。その一年を、季節ごとの祭祀行事を中心に静謐なモノクロの世界で描き出した写真集。八重山の島々には、豊年祭や種取祭、節祭、結願祭などさまざまな伝統祭祀行事がある。過疎化が進む離島の小さな島でも、人がそこに生活している限り絶えることがない。祭祀空間の中心をなす御嶽では司（つかさ）と呼ばれる司祭者による神との交信が行なわれ、あるいは神を招く海上の神事が繰り返されてきた。本書の作品にはいずれも地域の人々の敬虔な祈りがあり「静かな光」に満ちあふれている。

『来夏世 - 祈りの島々 八重山ー』 目次）

世を運ぶ舟／・世は稔れ 種は割れよ／・若夏になれば／・来夏世へ願いを込めて
月の真昼に／・白夏の過ぎるころ／・祈りの歳月（写真作品点数 計 160）

「世は稔れ」考／撮影メモ／・あとがき／・八重山諸島位置図

『来夏世 - 祈りの島々 八重山ー』 書誌情報）

著 者：大森一也
発 行：南山舎
発行日：2014年8月1日
定 価：2,900円＋税
頁 数：208頁
装 丁：上製本
ISBN978-4-901427-31-9



.....

【雑 誌】

No.30 『雑誌モモト Vol.17—懐かしくて新しい 台湾×琉球』（株）東洋企画印刷（東洋企画）

『雑誌モモト Vol.17—懐かしくて新しい 台湾×琉球』内容）

時代の荒波に翻弄されながらも、昔も今も多くの人やモノが行き交う台湾と沖縄。その歴史的な関わり。今の台湾と沖縄をつなぐ人たち。ガイドブックでは見えない、兄弟島・台湾と沖縄の絆を知る1冊。

『雑誌モモト Vol.17—懐かしくて新しい 台湾×琉球』目次）

仲程長治、祖父・父の足跡を辿る旅 台北～基隆慕郷

大人のための台×琉 基礎講座

激動の台湾を生きたウチナーンチュの物語

琉球見聞録 八重山の台湾

台湾と沖縄をつなぐ人々

——連載——

てんもり食堂

沖縄みーなりちちなり

島ぬ新背達

琉球いきもの雑学事典

仲村清司「細道の奥の...」

モモトカフェ

奥付／次号予告

バックナンバーのご案内

今日の佳かる日

長昶観美



『雑誌モモト Vol.17—懐かしくて新しい 台湾×琉球』書誌情報）

発 行：編集工房 東洋企画 モモト編集部

発行日：2014 年 1 月

定 価：952 円＋税

頁 数：80 頁

装 丁：並製本

ISBN978-4-905412-24-3

台湾の出版社へ紹介したい県産本（版元別）

●榕樹書林 (<http://gajumarubook.jp/>)

『島津氏の琉球侵略ーもうひとつの慶長の役』上原兼善
『アジアの海の古琉球ー東アジア・朝鮮・中国』内田昌子 他
『博物学と書物の東アジアー薩摩・琉球と海域交流』高津孝
『琉球王国海上交渉史研究』岡本弘道
『芭蕉布物語』柳宗悦著、松井健解題

●編集工房 東洋企画 (<https://toyo-plan.co.jp/>)

『教養講座 琉球・沖縄史』新城俊昭
『はじめての象棋（チュンジー）ーわかりやすい「象棋」の入門書・解説書』書誌情報）仲村 颯
『サンゴしょうのおとぎ話ーなかよし家族の観察ノート』土屋 誠
『沖縄を取り巻く経済状況ー沖縄に流れている俗説は果たして正しいのか』沖縄国際大学公開講座
委員会
『雑誌モモト Vol.17ー懐かしくて新しい 台湾×琉球』編集工房東洋企画 モモト編集部

●南山舎 (<http://nanzansha.com/>)

『島の手仕事ー八重山染織紀行ー』安本千夏
『沖縄八重山発 南の島のハーブ』嵩西洋子
『与那国島誌ー東アジアの南向き玄関口ー』宮良作・宮良純一郎著・宮良瑛子挿絵
『台湾疎開「琉球難民」の1年1か月』松田良孝
『来夏世〔新装版〕』大森一也

●ボーダーインク (<http://www.borderink.com/>)

『おきなわの一年』ボーダーインク編集部
『おうちでうちなーごはん』はやかわゆきこ
『本日の栄町市場と、旅する古書店』宮里綾羽
『帰る家もなく』与那原恵
『増補改訂 ぼくの沖縄（復帰後）史プラス』新城和博

●沖縄時事出版 (<http://www.oki-jiji.com/>)

『沖縄不真面目文化論』ひーぷー、こきざみインディアン、リップサービス
『親子で学べる 那覇まち物語』なはナビ友の会
『八重山を学ぶー八重山の自然・歴史・文化』「八重山を学ぶ」刊行委員会
『82 さいの中学生 はっちゃん』文：嘉納 英明 絵：鈴木智香子

●沖縄タイムス社 (<http://www.okinawatimes.co.jp/>)

『沖縄戦記 鉄の暴風』沖縄タイムス社

『世界の中の沖縄文化』渡邊欣雄

『海を歩けば』小菅丈治

『琉球菓子』安次富順子

『バッドデイ』黒ひょう

『インターフォン』松田良孝

『Summer Vacation』儀保佑輔

『写真記録 沖縄戦後史 1945－1998』沖縄タイムス社

「沖縄県産本30冊」書誌情報

◆発行年：2019年2月

◆発行元：合資会社 沖縄時事出版 〒900-0025 沖縄県那覇市壺川1-3-10

TEL(098)854-1622 E-mail: edit-gg@flute.ocn.ne.jp

The 沖縄本.com <http://www.okinawabon.com/>

担当：沖縄事務局長 呉屋栄治 (GOYA EIJI)

※平成30年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業補助金にて制作